

『いい』に出会って、いい未来へ

MAY PHUU THWE
(メイフー トウエ)
しゅっしんち
出身地：ミャンマー

私が留学の時、一番最初に出会った「難しい日本語」は、なんと二文字の「いい」でした。今日は、その「いい」から始まった、私の「いい未来」のお話をしたいと思います。私は日本へ来る前に大学で日本語を勉強したので日本に来て全く問題ないと思っていました。しかし、日本に来てそれが間違っていることに気がつきました。

日本のコンビニでアルバイトを始めたばかりの頃、私はお客様に「レジ袋ご利用になりますか？」と尋ねました。お客様は「いいです」と答えたので、私はレジ袋が要ると思いい、お客様の商品をレジ袋に入れようとしたのですが、お客様は少し怒って『いいって』と言い、袋は使わずに出て行かれました。私が教えられた「いい」という言葉は「イエス、オーケー」という意味だと思っていたので、実際の日本語と私が習った日本語が違うことにびっくりしました。

また別のお客様に同じ質問をした時は「いいですよ」と言われました。私は前と同じ意味だと思い袋に入れませんでした。そのお客様は「レジ袋お願いします」と言いました。皆さん、『いいです』と言われたら、レジ袋はいると思いますか？いらないと思いますか？前のお客様の「いい」という意味はレジ袋はいらないという意味ですが、今度のお客様の「いい」はレジ袋はいるという意味だったのです。同じ「いい」という言葉でも、使い方によって全く違う意味になることに戸惑ってしまいました。

アルバイトが終わった後、店長に話し、「私の日本語はどうですか？」と聞くと、店長は笑いながら『いい』という言葉には、『お願い』や『オーケー』といった肯定的な意味もあれば、『いいえ、結構です』という否定的な意味もあることを教えてくれました。また、お客様の言い方やイントネーション、顔の表情を見て判断するようにも教えてもらいました。

日本では『はい』や『いいえ』をはっきり言わない文化があるため、最初は日本語の曖昧さが分かりませんでした。なぜはっきり言わないのでしょうか？しばらく日本で生活していくうちに、日本には曖昧さの裏側にはお互いを尊重する心があるのに気づきました。相手

きず ていねい ことば つか はな けっか あいまい ひょうげん
を傷つけないように丁寧な言葉を使って話すので結果、このような曖昧な表現になること
わ
が分かりました。

わたし かいわ
では、私のふるさどであるミャンマーの会話ではどうでしょうか？

にほん かいわ ひかく ひと にほんじん
日本とミャンマーの会話を比較してみます。かつらがずれている人がいたとします。日本人
きょう ふんいき ちが つた いっぽう
は「今日はいつもと雰囲気が違うね」とやんわり伝えようとする場合があります。一方、ミ
じん ちやくせつた ことば
ャンマー人なら「かつらがずれてるよ」と直接伝えます。ミャンマーでは言葉をストレート
つた ぶんか あか わ あいて きず
に伝える文化があり、明るくて分かりやすいイメージがあるのです。相手を傷つけるのでは
じょうきょう き かいぜん かんが とおまわ ひょうげん さ
なく、その状況に気づき、改善できると考えるため、あえて遠回しな表現を避けること
いっぽんてき
が一般的です。

あか ひと げんき あた あいまい あいて おも ところ つな わたし みらい
明るさは人に元気を与え、曖昧さは相手を思いやる心に繋がります。私の未来はミャン
しゃかい にほん おし あいて ぞんちよう やわ い かた ひろ おも
マーの社会で、日本から教えられた「相手を尊重する柔らかい言い方」を広めたいと思っ
わたし さいしょ にほんご あいまい とまど いま うつく かんしゃ
ています。私は最初、日本語の曖昧さに戸惑いましたが、今はその美しさに感謝していま
さいご じょうきょう ふうもじ であ ことば おく ひと ところ
す。最後に、「いい」というたった二文字との出会い、そしてその言葉の奥にある人の心か
まな わたし ところ しん あいて ぞんけい にほんご あいまい とも
ら学んだからこそ私はその心を信じて、これからも相手を尊敬し、日本語の曖昧さと共に
わたし みらい あゆ おも
私の未来を歩んでいきたいと思っています。